

手取川のこれからの 河川整備について (流水の正常な機能維持)



北陸地方整備局

金沢 河川
国道 事務所

現状と課題

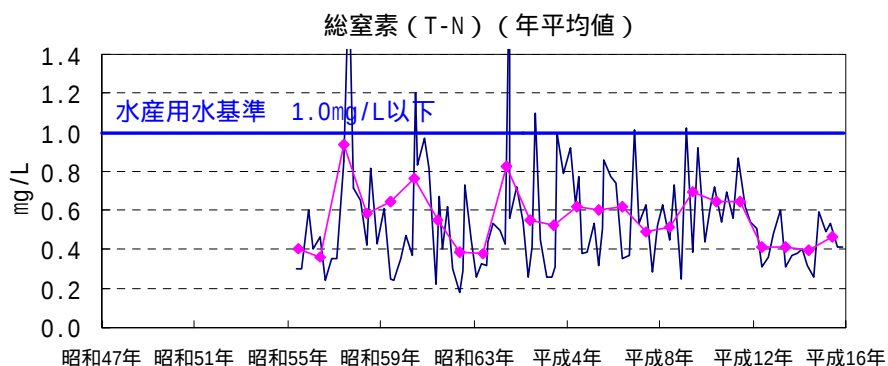
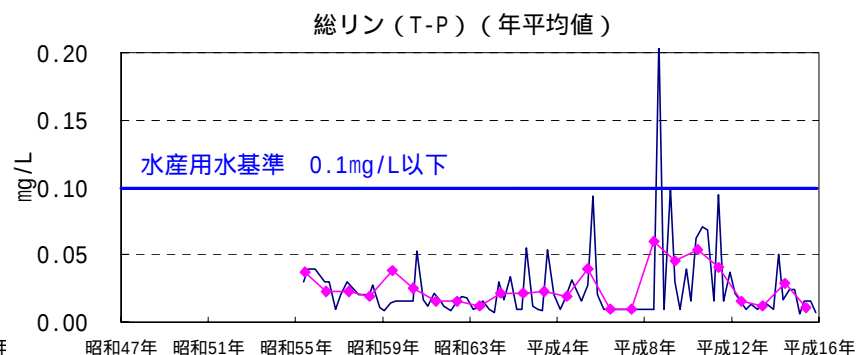
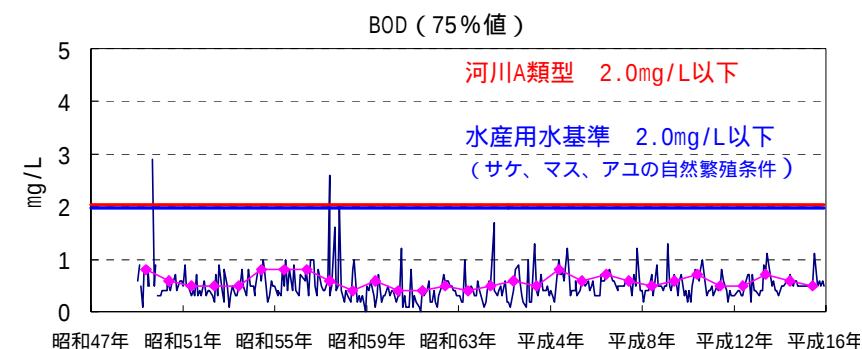
河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

現 状	課 題
・河川・ダム共、BODは環境基準を概ね満足、SS・大腸菌は満足しないことが有	良好な水質の保全
・未対策の減水区間延長は、H17.4現在で10.8kmが残存 ・河川流量と扇状地地下水位とが連動する地点が存在	水環境の改善

1) 良好な水質の保全

● 必要性

BODは環境基準を概ね満足している。

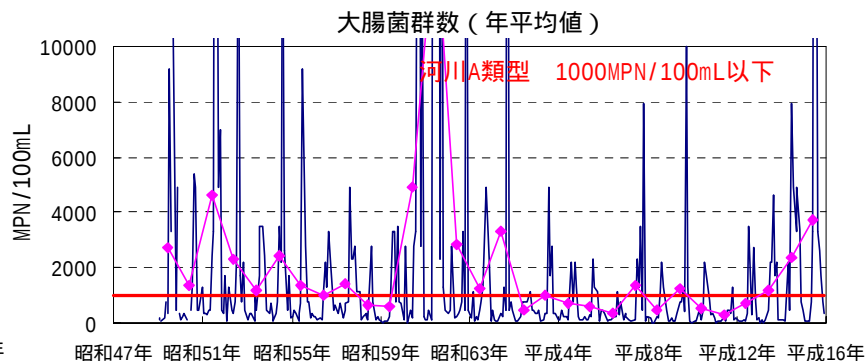
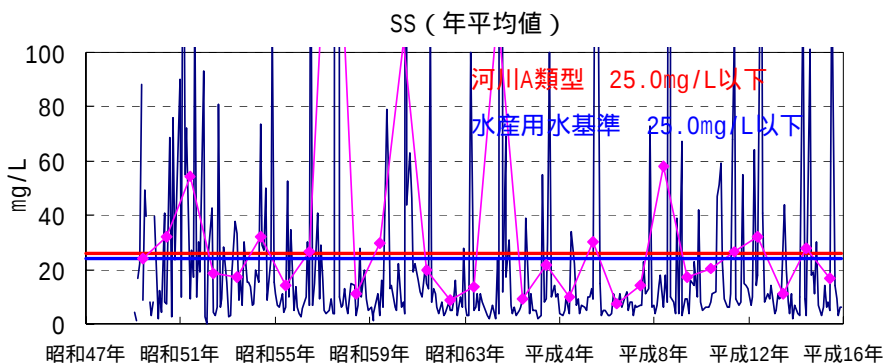


青色は水産用水基準
(日本水産資源保護協会 (H7年12月))

— 月一回の測定データ
◆ 年平均値

白山合口堰堤の水質経年変化

しかし、SS、大腸菌群数については基準を超過する
事がある。



青色は水産用水基準
(日本水産資源保護協会(H7年12月))

— 月一回の測定データ
—● 年平均値

白山合口堰堤の水質経年変化

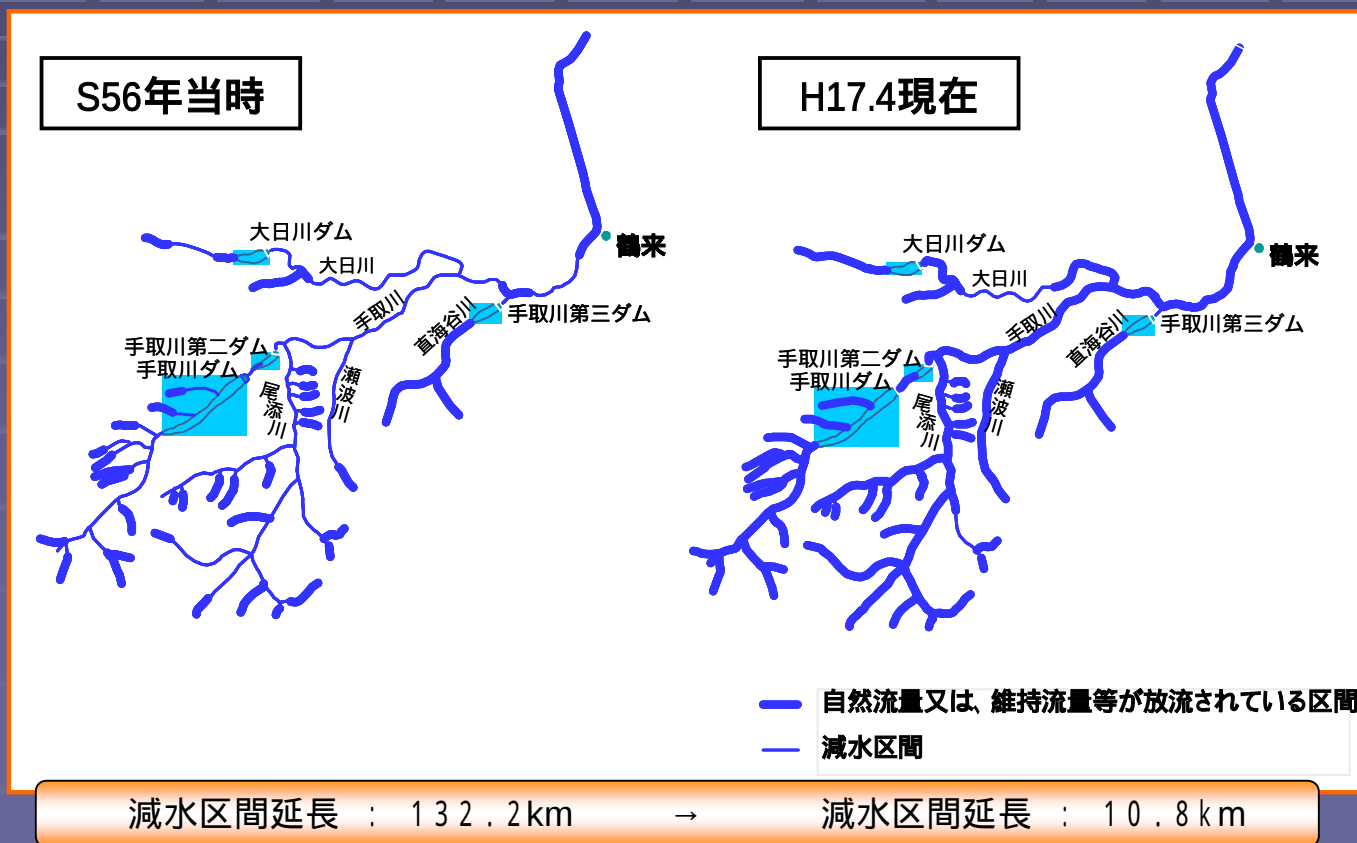
● メニュー

濁水の原因・対策の調査検討、大腸菌の汚濁原因の調査検討を行う。

2) 水環境の改善

● 必要性

発電取水施設から維持流量の放流等が行われ、減水区間の改善が進んでいるが環境への影響を軽減する為、引き続き改善が必要。



2) 水環境の改善

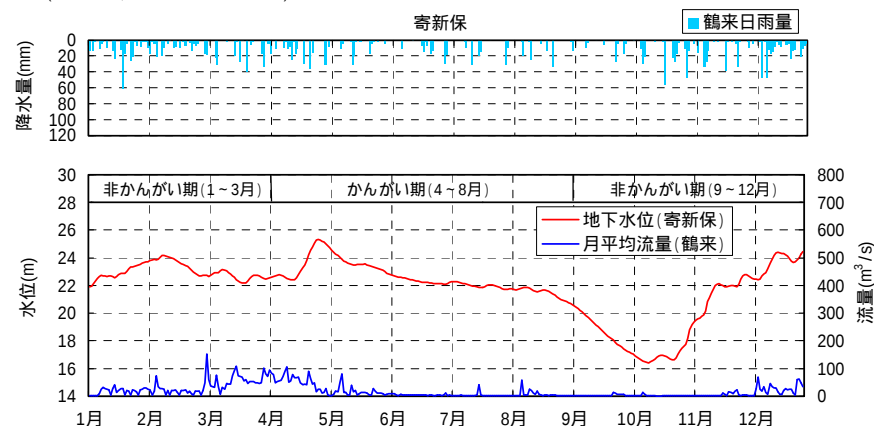
必要性

手取川扇状地の地下水は、水道水や工業用水等多方面に利用されており、その水源の一つでもある河川水との関連性について解明する必要がある。

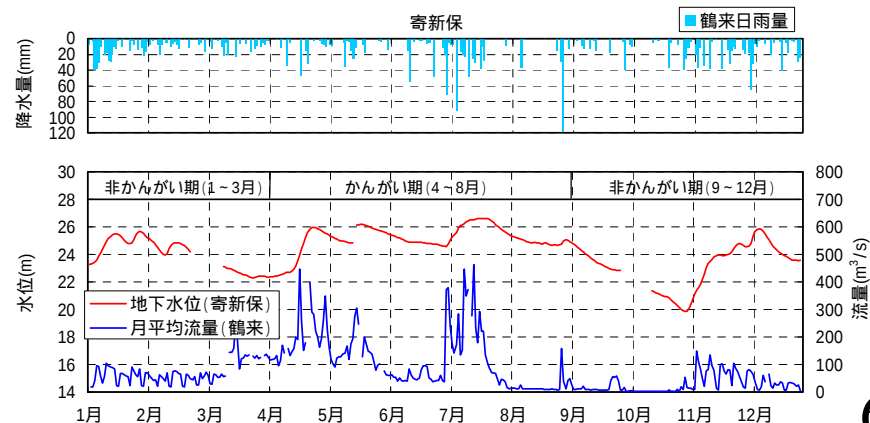


河川流量と地下水位が高い連動を示す地点(寄新保)

H4年(降水量、流量の少ない年)



H7年(降水量、流量の多い年)



● メニュー

水環境改善に向けた事業の実施について検討する。
減水区間を解消する為、関係機関による調整を行う。
同時流量観測や地下水の流向・流速調査等、河道の
伏没・還元機構解明に関する調査を行う。